『特別の教科　道徳』における授業デザインシートの開発

－教師と学生の課題意識から，これからの道徳科の授業づくりを考える－

教育学研究科 教育実践創成専攻 教育実践開発コース 教師力育成分野　中山　裕之

1. はじめに

平成 29 年度には小学校，平成 30 年度には中学校において，「道徳の時間」が「特別の教科道徳（以下道徳科）」として教科化された。その背景としては，「歴史的経緯に影響され，いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること，他教科に比べて軽んじられていること，読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があることなど多くの課題が指摘されている」（文部科学省，2017）といったことが挙げられている。

つまり，道徳における「量的確保」と「質的改善」が課題として挙げられている。

このことから，多くの学校が校内研で道徳科について取り上げ，「考え，議論する道徳」や「道徳科の評価」についての研究が行われてきた。

それから３～４年が経ち，「道徳バブル」といわれる道徳熱は落ち着きつつあるが，教科化後も，道徳科の授業に難しさを感じたり，有効性について疑問をもちながら授業を行ったりしている教師も多いのではないだろうか。また，「〇〇教育」といった様々な教育活動や，働き方改革，多忙化改善の流れがある中で，道徳科の授業づくりにかけられる時間は限られている。さらに，教師の大量退職，大量採用時代があと数年続き，若手の教師が増え，教育の質をどのように担保していくのかも課題となっている。

以上のように，教科化後も多くの課題が山積しているが，道徳科の学習は予測困難なこれからの時代を生きる子どもたちにとって，とても大切なものだと考えている。よって道徳科における効果的な教材研究，授業づくりについて研究し，課題解決のための方策について考えることを通して，授業づくりの一助になることができればと思い，本主題を設定した。

２．研究の目的と方法

（１）研究の目的

道徳科の授業づくりや実際に指導を行う上での課題を明確にし，課題解決や働き方改革についての改善を図るための道徳科の授業デザインシートの開発を行う。

（２）研究の方法

①道徳科の授業に関する意識調査の実施

教師が，現在感じている道徳科の授業を行う上での課題点や疑問点について調査をし，課題を明確にする。

学生（教職大学院ストレートマスター）が，自分が受けてきた道徳の授業のことや，教壇に立つうえでの道徳科の授業の課題点ついて調査をし，課題を明確にする。

②授業デザインシートを活用した授業実践

調査から明らかになった課題をもとに，授業デザインシートを作成し，授業デザインシートを使って自ら授業を実施したり，若手の教師や学生に授業を実施してもらったりする中で，道徳科の授業づくりについて考えていく。

３．研究の結果と考察

（１）道徳科の授業に関する意識調査の結果

①山梨県内小学校教師

・調査対象：山梨県内小学校教師（155 名）
・調査時期：2021 年 7 月～8 月
・調査方法：質問紙調査
・調査内容

表１に示す調査項目１～２については４つ

の中から一つだけあてはまるものを選んで回答してもらった。調査項目３～５については，それぞれ 12 の選択肢の中からあてはまるものを３つまで選んで回答してもらった。

表１　調査内容とその結果（小学校教師）

1	教職経験年数についてお答えください
	・5 年未満［21%］・5 年～10 年［19%］・10 年～20 年［26%］・20 年以上［34%］
2	道徳科は他の教科に比べて指導が難しいと感じますか
	・そう思う［19%］・どちらかというとそう思う［64%］・どちらかというとそう思わない［14%］・そう思わない［3%］
3	道徳科の授業づくり（教材研究・構想・準備等）において難しいと感じていることを３つまであげてください
	1 教材（資料）を探すこと［8%］ 2 ねらいを設定すること［13%］ 3 発問を考えること［66%］ 4 考え，議論する学習の行い方を考えること［62%］ 5 導入の展開の仕方［5%］ 6 終末の展開の仕方［41%］ 7 評価をどのように行うか［35%］ 8 板書計画［10%］ 9 書く活動をどのように行うか［8%］ 10 話し合い活動，役割演技等の表現活動をどのように行うか［34%］ 11 教科書（教材）をどのように活用すればよいか［7%］ 12　その他［2%］
4	道徳科の授業を行う際に（実施）において難しいと感じていることを３つまであげてください
	1 ねらいを達成すること［39%］ 2 時間内に終えること［17%］ 3 考え，議論する学習の行い方［56%］ 4 導入の展開の仕方［3%］ 5 終末の展開の仕方［35%］ 6 評価をどのように行うか［37%］ 7 板書の仕方［10%］ 8 書く活動をどのように行うか［8%］ 9 話し合い活動，役割演技等の表現活動をどのように行うか［34%］ 10 教科書（教材）の活かし方［7%］ 11 児童の発言の生かし方［36%］ 12 その他［3%］
5	「特別の教科　道徳」として教科化されてご自身の道徳の授業で変わったところを 3 つまであげてください
	1 35 時間（毎週 1 時間）確実に実施するようになった［37%］ 2 考え，議論する学習への転換を意識するようになった［48%］ 3 発問を工夫するようになった［41%］ 4 評価を意識するようになった［41%］ 5 書く活動を工夫するようになった［9%］ 6 話し合い活動や役割演技等の表現活動を工夫するようになった［25%］ 7 板書を工夫するようになった［17%］ 8 ICT を活用するようになった［4%］ 9 教科書を使うようになった［13%］ 10 特に変わったことはない［6%］ 11 教科化されてから道徳科を担当していない［8%］ 12 その他［2%］ 未回答［1%］

②調査結果からわかる課題（山梨県内小学校教師）

調査の結果から，他の教科に比べて指導が難しく感じるかについて，「そう思う」「どちらかというとそう思う」と答えた割合を合わせると 83%にも及んでいる。

道徳科の授業に指導の難しさや苦手意識，困り感を抱えている教師が多いことから，授業の質的課題や 35 時間の実施という授業の量的確保の課題について一定の成果つながっていると考えられる。

授業づくり（教材研究・構想・準備等）において難しいと感じていることについて，「３　発問を考えること」「４　考え，議論する学習の行い方を考えること」に難しさを感じていることが顕著に表れている。このことから，「考え，議論する道徳」を行うためには発問がより重要であるが，どのように発問を考えたらよいのか，何をどのように「考え，議論する」のかについて難しさを感じているのではないかと考えられる。

授業を行う際に（実施）において難しいと感

じていることについては，授業づくりと同様に「考え，議論する学習の行い方」に難しさを感じていることが顕著に表れている。やはり，何をどのように「考え，議論する」のかについて難しさを感じている教師が多く，これまでの授業の課題として指摘されているように心情理解にとどまったり，わかりきったことを出し合ったりする授業からの脱却について具体的な提案が必要だと考えられる。

教科化されて自身の道徳の授業で変わったところについては，35 時間の量的確保という課題に対して意識が高まっていることがわかると同時に，これまでの結果と合わせて考えてみると，「考え，議論する道徳」を行うことの重要性の認識は高まってきているといえるが，「考え，議論する道徳」を行うための発問や授業展開などについて，難しさを感じているのではないかと考えられる。

③教職大学院ストレートマスター

・調査対象：教職大学院ストレートマスター（28 名）

・調査時期：2021 年 7 月～8 月

・調査方法：Google forms によるインターネット調査

・調査内容

表１に示す調査項目１～４については４つの中から１つだけあてはまるものを選んで回答してもらった。調査項目５については，自由記述として回答してもらった。

表２　調査内容とその結果（学生）

1	道徳科の授業を行う教師の立場で考えたとき，道徳科の授業のイメージを明確にもっていますか
	・明確にもっている［4%］・ある程度もっている［39%］・やや曖昧である［43%］・曖昧である［14%］
2	道徳科の授業は他の教科に比べて指導が難しいと感じますか
	・そう思う［57%］・どちらかというとそう思う［36%］・どちらかというとそう思わない［4%］・そう思わない［4%］
3	あなたが受けた「道徳の時間」の印象について答えてください。道徳の時間が
	・好きだった［7%］・まあまあ好きだった［45%］・あまり好きではなかった［36%］・好きではなかった［11%］
4	あなたが受けた「道徳の時間」の印象について答えてください。道徳の時間は
	・ためになった［11%］・まあまあためになった［39%］・あまりためにならなかった［36%］・ためにならなかった（14%）
5	あなたが小学校や中学校で受けた道徳の授業にはどんな感想をもっていますか（自由記述）
	【肯定的な感想】 ・自分の現在の振り返りや価値観の広がりがあった。 ・教科書の内容から，よりよい行動の選択や考え方を学んだ。 ・生きる上で大切なモラルを学んだ。 ・色々な考え方があるんだなというふうに感じていた。 【否定的な感想】 ＜国語や学活との違い＞ ・国語みたいなイメージがあった。 ・国語のようなただあらすじを読み取る授業。 ・国語との違いがイマイチわかっていなかった。 ・道徳は他の学級活動になることが多かった。 ・学活との違いが理解できなかったくらい自由に使っていい時間という印象。 ＜楽だった＞ ・他の授業よりは楽。 ・成績に関係ないから気分が楽だった。 ＜道徳に印象や興味がない，何を学んでいるのか良くわからない＞ ・あまり，印象に残っていない。やっていたかな？という感じ。 ・正直あまり道徳の授業は記憶にない。恐らく，当たり前のことをみんなで考えていたからだと思う。 ・特別印象に残っている道徳の授業はパッと浮かばない，中学校での記憶はほとんどない。 ・正直あまり覚えていない。ただ，人として当たり前のことを学ぶという印象があった。 ・正直，道徳の授業を覚えていない。 ・実際のところ，道徳の時間の事をほとんど覚えて

	いないです。何をやったのかを全く覚えていません。 ・道徳では，何を学んでいるのかが曖昧だったため，振り返った時に何が自分に身に付いたかよく分からないことがあった。 ・あまり興味がなく，他の物語を読み進めていた。 ＜授業展開の方法＞ ・ストーリーを読むことがメインであった印象 ・先生が読んでくれるときもあったが，先に読んだことがあると他のページを読みたくなった。 ・内容について考える授業もあったが，なんとなく考えて終わった気がする。 ・読み物資料を先生ないしは生徒が読んで感想を書いたり発表したりする授業。 ・物語を読んで内容を読み取り，その物語の内容を踏まえてみんなで考えたりしていた。 ・読み物を読んで情操を育むもの。 ・教科書を読んで登場人物の気持ちを考えることが多かった。 ・心のノートを使っていましたが，その後ろに教材のテーマが載っていました.（ワークの方だったかもしれません）その為，テーマにあった感想や意見をしていた記憶があります。 ＜わかりきったことや，教師への忖度した考え＞ ・先生から良い評価をもらうために，ありきたりなことをプリントに記入していた。 ・みんなと同じ考えを言うように授業を受けていた。 ・はいはい，その行為が「良い」のね。わかったっていえば先生も安心するのね。覚えますよ。という気持ちで授業を受けていた。 ・わかっていることを答えるだけの授業。 ・見え見えの答えがあり，「このように答えておけばいいんだろうな」というのが面白くなかった。 ・道徳は，良いことを発言すれば褒められると思っていた。 ・教材を真剣に検討した記憶はほとんどありません。 ・道徳は当たり前のことを言っているように感じていた（挨拶をしよう，みんなで協力しようなど）。

④調査結果からわかる課題（教職大学院ストレートマスター）

道徳~~の~~授業のイメージを明確にもっているのかについて「曖昧である」「やや曖昧である」と答えた割合を合わせると 53%であり，半数以上の学生が充分なイメージをもっていないことがわかる。

他の教科に比べて指導が難しく感じるかについて，「そう思う」「どちらかというとそう思う」と答えた割合を合わせると 93%にも及んでいることから，大学での授業や教育実習，受けてきた道徳の授業の経験が影響していると考えられる。

道徳の時間の印象について，「好き」「好きではない」の傾向の割合がほぼ半数であり，また，「ためになった」「ためにならなかった」傾向の割合が，それぞれ約半数であったことから，道徳に対する学生の実態，意識が二極化されている状態にあるといえる。

自由記述で行った小学校や中学校で受けた道徳の授業の感想については，「生きる上で大切なモラルを学んだ」というような肯定的な感想は一部にとどまり，大部分は否定的な感想であった。否定的な感想を分類すると「国語や学活との違いがよくわからない」「他の教科と比べて楽」「道徳に印象や興味がない，何を学んでいるのか良くわからない」「わかりきったことや，教師への忖度した考え」といったことが挙げられ，道徳が軽視されたり，学ぶことのよさを実感してこなかったりした学生が多数いるということが分かった。

⑤調査結果から課題解決に向けて

この結果から，道徳科の授業づくりに対する難しさへの意識改善，発問や「考え議論する道徳」に向けた授業づくりに向けた具体的なイメージをもつための方策として「道徳授業デザインシート」を作成し，その効果を検証することとした。

（２）発問のレベルを意識した授業デザインシートの開発

①発問のレベルを意識した授業構成

道徳科の授業において島（2020）は，道徳科の授業における発問について以下のように整理している。

表３　発問の３つのレベル

a.状況理解レベルの発問	
教材から	だれが出てきた。 何があった。
b.心情読解レベルの発問	
登場人物の考えたことや感じたこと	主人公は何を考えた どんな気持ちだった
c.道徳的価値レベルの発問	
道徳的価値についての考え方や生き方，信念	その思いを支えている考え方，感じ方，生き方

教科化以前の「道徳の時間」では，前半には状況理解レベルの発問や，心情読解レベルの発問に偏った授業が行われ，後半には，「これからどうしていきたいか」といったような決意発表を行うといった型の授業が行われ，それが授業の硬直化，形骸化を招いたという経緯もある。

つまり，「考え，議論する道徳」にするためには状況理解レベルの発問や，心情読解レベルの発問が中心の授業から，道徳的価値レベルの発問を中心とした授業構成が必要ではないかと考えた。

②授業デザインシートを用いた授業構成の工夫

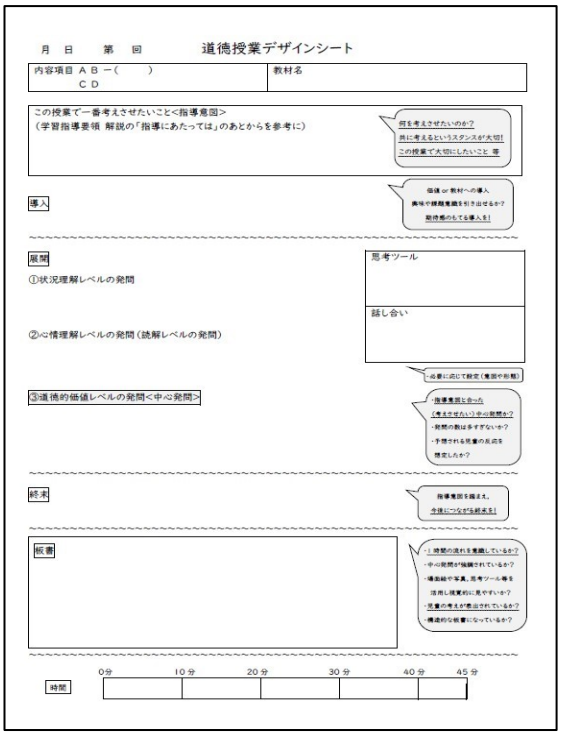

図１　道徳授業デザインシート（左側）

授業を構想するにあたり，図１，図２のように授業構想シートを作成した。

左側には，日付，内容項目，教材名，導入，終末，時間配分，思考ツールや話し合い活動といった具体的な手立てのほかに，以下の３点について注目して記入することとした

a.この授業で一番考えさせたいこと＜指導意図＞（学習指導要領の「指導にあたっては」のあとからを参考に）

b.状況理解レベル，心情読解レベル，道徳的価値レベルの発問を意識した展開

c.1 時間の流れが視覚的にわかる板書

授業構想において，一番大切なことは児童に何を考えさせたいのかという指導意図である。指導意図を明確に設定することで，中心発問である道徳的価値レベルの発問について児童がじっくりと考えられるようになり，発問の工夫と，「考え，議論する道徳」への改善に繋がるのではないかと考えた。

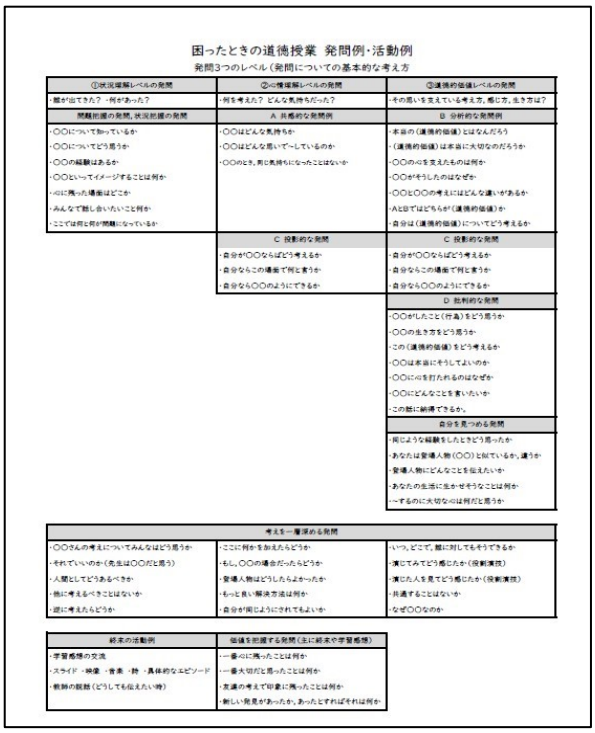

図２　道徳授業デザインシート（右側）

右側には，「困ったときの道徳授業発問例・活動例」を作成した。

上段には３つのレベルの発問例を縦に整理して表にまとめた。

状況理解レベルの発問では，「誰が出てきた？何があった？」という観点から，問題把握の発問，状況把握の発問を取り上げた。

心情読解レベルの発問では，「何を考えた？どんな気持ちだった？」という観点から，A 共感的な発問例，C 投影的な発問例を取り上げた。

道徳的価値レベルの発問では，「その思いを支えている考え方，感じ方，生き方は？」という観点から，B 分析的な発問例，C 投影的な発問例，D 批判的な発問例，そして自分を見つめる発問例を取り上げ，中心発問として考えやすいようにした。

さらに，考えを一層深める発問例や，主に終末や学習感想につなげる価値を把握する発問例，さらには終末の活動例を取り上げることで，授業の深まりや指導と評価の一体化につなげられるように工夫した

（3）授業デザインシートの有用性と課題

若手教師や学生へのインタビュー調査から

道徳授業デザインシートを 4 名に教育現場で活用していただき，その後インタビュー調査を行った。

・調査対象　４名

A：1 年生担任（採用 2 年目）実施回数 2 回

B：4 年生担任（採用 3 年目）実施回数 3 回

C：5 年生担任（採用 2 年目）実施回数 5 回

D：教職大学院ストレートマスター

（実習先配属 2 年生）　実施回数 1 回

・調査内容

1．シート作成にかかった時間

2．負担感

3．よく理解できたこと

4．難しかったこと

5．児童の様子

6．もっとこうしたら使いやすいというところ

7．その他，率直な感想等

8．授業デザインシートを使ってみての道徳の授業に対するハードルの高さの変化（最高 10，最低 1）

表 4　インタビュー調査の結果

	A　1年生担任 採用２年目	B　4年生担任 採用３年目	C　5年生担任 採用２年目	D　教職大学院 ストマス
実施回数	２回	３回	５回	１回
かかった時間	・１回目→２時間 ・２回目→１時間半	・１回目 35 分 ・２回目 30 分 ・３回目 20 分 ・３回目には慣れてきた	・５回とも 30 分から 40 分程度に収まるように意識して行った	・１時間半
負担感	・時間を無駄にしなかった ・他の業務には特に影響はなかった	・負担感は感じない。 ・ノートを使って教材研究をしていたが，時短になった。楽になった	・負担感はなし ・考えるのが楽しかった	・特になし
よく理解できたこと	・３つの発問のレベルを意識することで授業が流しやすくなった。 ・指導意図を意識することが大切だとわかった	・これまであまり意識しなかったが，発問の３つのレベルを意識するようになった	・今までは心情理解で終わってしまうことがあったが，価値レベルの発問を意識するようになった	・３つの発問のレベルのことがよくわかった
難しかったこと	・右側の発問リストの使い方が難しい。 ・どの発問を中心発問に	・特に感じなかった	・３つの発問のレベルが当てはまらない教材のときに悩んだ	・右側の発問例や例示から探そうと思ったが，うまく見つからず不安

	すればよいのか悩んだ			になった
児童の様子	・子どもたちが周りの子の意見を聴くようになったり，しっかり考えるようになったりした ・特に，②③の発問の部分で児童の変化が感じられた。 ・教師として授業の達成感につながった	・児童の様子は大きくは変わらない，良い感じ ・フリーズすることがなくなった ・手ごたえを感じるようになった ・発問と発問がつながった感じがした	・話し合いの土台ができやすくなった感じがした ・話し合い活動の深まりにつながった ・自分の考えが持てるようになった児童が増えた ・子どもが考えやすくなっている ・教師の発問がブレない感じがする	・特に感じられず，いつも通りであった
もっとこうしたら使いやすい というところ	・ワンポイントアドバイスはわかりやすかった ・価値レベルの発問が発達段階に分かれているとより分かりやすいのでは ・板書のパターンがあるとよい	・導入のリストが欲しい ・発問例，活動例のリストを増やしてほしいがいろいろありすぎると授業の硬直化につながると感じる。その先生らしさも大事にしたい	・ICT の活用の欄 ・授業評価の項目，教師の振り返りの項目があるとよい ・デジタル化，データ化できないか ・プルダウンリストを使えば時短につながるのではないか	・思考ツールや話し合いのリストなどが欲しい
その他，率直な感想等	流れがはっきりし，見通しが持てるようになった ・このシートを継続して使ってみたい。自分の力になると思う ・シートを蓄積していきたい ・考えていて楽しかった ・ワンポイントアドバイスはわかりやすかった	・ローテーション道徳で可能性が広がると感じた ・左右別でもよい	・道徳の面白さに気づけるようになった ・出たこと勝負から，授業がイメージできるようになった ・もっと継続して使い，数時間蓄積していきたい。蓄積していくことで力になると感じた	・３つのレベルの発問を意識したことで学習感想やワークシートを見る視点が明確になった
道徳科の授業に対するハードルの高さの変化（1~10）	**8→4** ・道徳の授業に達成感を感じるようになった ・子どもとつながれるようになった感じがした	**7→4** ・若い教師はぜひ使ったらいい ・ノートよりいい	**8→7** ・道徳の授業が好きになった ・教材研究の中身が濃くなった ・時間配分が意識できるようになった ・充実感があった	**9→6** ・発問のレベルを意識できたことが大きい ・自分とのかかわりで考えることができる工夫がさらに必要だと感じる

４．研究のまとめ

①成果として

インタビュー調査から，まず大きな成果としてあげられることは，「道徳科の授業づくりに対するハードルが下がった」，「道徳の授業が楽しくなった，達成感，充実感があった」という点である。それは３つの発問のレベルを意識することで，授業の流れが整理でき，授業のイメージをもちやすくなったからであると考えられる。

次に，「実践の積み重ねを継続して行っていきたい，継続することで自分の力になる」という意見については，実施数は少ないが，シートを活用することで手ごたえを感じたことが分かった。継続するためには使いやすさも重要であるため，リスト等の選択肢を増やしすぎず，自由度をもたせたことが良かったと考えられる。

さらに，「周りの児童の意見を聞こうとする児童が増えた」，「話し合いの内容が深まった」という意見からは，シートを使うことで，何を「考え，議論する」かについて教師が明確にすることができ，児童の考える視点が明確になったことが，手ごたえのある授業につながったと考えられる。

②課題として

課題としてまず挙げられることは，「中心発問（道徳的価値レベル）を考えるのが難しい」ということである。中心発問はいわば授業の肝であるが，経験が少ない若手の教師にとって難しさを感じる傾向にあることが分かった。課題解決のためには，指導意図（何を考えさせたいのか）に立ち戻ってみたり，学習指導要領解説の内容項目の項の記述を参考に考えてみたりすることが大切である。また，使用しながらリストの改善，更新をしていくことも必要であるとも考える。

さらに，「教材によっては，発問が当てはまらず，使いにくさを感じる場合がある」という課題においては，教材は物語文，人物，創作文，写真等様々な種類があるので，状況理解レベルの発問や心情読解レベルの発問は必要や状況に応じて設定し，中心発問（道徳的価値レベルの発問）についてじっくりと考えられるようにすることが大切であると考える。

「様々なリストがよりあるといい（発問例，活動例，板書パターンなど）」，「データ化，デジタル化して使ってみたい」という点については，様々なリストを設けることで，便利かもしれないが，考える自由度を狭くしてしまい，授業の硬直化，パターン化を招いてしまうのではないかとも危惧している。一方で，短時間で効率的に教材研究，授業構想をするという意図があるので，使いやすいのであるのならば，必要に応じてリストやデータ化など改善，更新について検討していく。

③おわりに　次年度に向けて

近年，社会情動的スキル（非認知的スキル）の重要性が取り上げられる中で，道徳科か果たす役割はさらに大きくなるのではないかと考えている。学校現場は多忙化の問題，大量退職，大量採用による教育の質の確保の問題，様々な教育課題に対する時事的問題等，問題が山積している中で，時間を有効に使い，教材研究を短い時間で効率的に行うことがより一層求められていると考える。

来年度は，上記の視点を踏まえ，ローテーション道徳等，道徳科の授業の質の向上や学校全体の働き方改革の視点も踏まえ，さらに研究していく。

引用・参考文献等

・文部科学省「学習指導要領解説　特別の教科道徳」(2017)
・田中一弘「特別の教科 道徳」の授業構想の在り方についての一考察－教師が感じる指導の難しさに視点をあてて－（2020）
・畿央大学　島恒生「発達の段階に応じた道特科の指導」独立行政法人教職員支援機構（2020）
・諸富祥彦　土田雄一「考えるツール＆議論するツールでつくる小学校道徳の新授業プラン」（2020）明治図書・
・『道徳教育』編集部「考え，議論する道徳をつくる新発問パターン大全集」（2019）明治図書